

南大沢駅周辺地区まちづくり方針策定等検討委員会

第2回 2020(令和2)年2月10日 開催

I まちづくりの方向性等について

1 まちづくり方針策定の背景等

- (1) 背景と目的 (P5)
- (2) まちづくり方針の対象範囲 (P6)

2 まちづくりの方向性(案)

- (1) まちづくりの方針 (P7)
- (2) 将来像 (P8)

3 分野別のまちづくりの方針(案)

- (1) 土地利用の方針 (P20)
- (2) 景観・みどりの方針 (P22)
- (3) ネットワークの方針 (P23)
- (4) エリアマネジメントの方針 (P24)
- (5) 先端技術活用の方針 (P25)

II 参考資料(前回検討委員会の補足資料)

1 東京都立大学※に関係すること

- (1) 大学の概要 (P29)
- (2) 日野キャンパスにおける取組 (P30)
- (3) 各キャンパスの状況 (P31)

2 留学生等に関係すること

- (1) 周辺大学の留学生等の状況 (P32)
- (2) 国際学生寮の状況 (P33)
- (3) 国等による留学生支援策 (P34)
- (4) 団地を活用した留学生寮等の事例 (P36)
- (5) 学生がまちづくりに参画している事例 (P37)

3 その他

- (1) 現在の施設立地の状況 (P38)
- (2) 地区計画の指定状況 (P39)
- (3) 駅前の各画地の利用状況 (P40)
- (4) 周辺の団地の状況 (P41)
- (5) 多摩ニュータウンにおける高齢化への取組 (P45)
- (6) 三井アウトレットパーク多摩南大沢等の特徴 (P46)
- (7) 南大沢における景観形成 (P48)
- (8) 南大沢におけるネットワークの状況 (P51)
- (9) 南大沢における現在の地域活動の取組 (P52)

(参考) 検討の進め方、今後のスケジュール

2019(令和元)年
11月15日

第1回南大沢駅周辺地区まちづくり方針策定等検討委員会
・意向調査の結果
・まちづくり方針の構成イメージ ほか

2020(令和2)年
2月10日

第2回南大沢駅周辺地区まちづくり方針策定等検討委員会
・まちづくりの方向性 ほか

2020(令和2)年
夏頃

第3回南大沢駅周辺地区まちづくり方針策定等検討委員会
・まちづくり方針(素案) ほか

2020(令和2)年
夏頃

パブリックコメント実施

2020(令和2)年
秋頃

第4回南大沢駅周辺地区まちづくり方針策定等検討委員会
・パブリックコメントの結果報告
・まちづくり方針(案) ほか

2020(令和2)年度

「南大沢駅周辺地区まちづくり方針」策定・公表

※ 上記の後、2023年度(予定)
2025年度

所有地(A～C画地)の事業者公募を実施
所有地の現在の定期借地期間終了

(参考) 委員一覧

	氏名	役職
委員長	岸井 隆幸	日本大学理工学部土木工学科特任教授
委員	井出 多加子	成蹊大学経済学部経済経営学科教授
委員	瀬田 史彦	東京大学大学院工学系研究科准教授
委員	竹宮 健司	首都大学東京都市環境学部 建築学科教授
委員	三村 優美子	青山学院大学経営学部教授
委員	山崎 弘人	東京都都市整備局景観・プロジェクト担当部長
委員	松崎 浩一	東京都都市整備局多摩ニュータウン事業担当部長
委員	廣瀬 勉	八王子市産業振興部長
委員	太田 國芳	八王子市都市計画部長

I まちづくりの方向性等について

- 1 まちづくり方針策定の背景等
- 2 まちづくりの方向性(案)
- 3 分野別のまちづくりの方針(案)

(参考) まちづくり方針の構成イメージ (案)

1 まちづくり方針策定の背景

- まちづくり方針策定の背景 ★☆
- まちづくり方針策定の目的 ☆
- まちづくり方針の位置付け(第1回でご説明)
- まちづくり方針の対象範囲 ☆

★: A3資料に記載した事項

☆: 本資料(パワーポイント)に記載した事項

2 地区の現況と求められる新たな対応 ★

3 まちづくりの方向性 ★☆

- まちづくりの方針
- 将来像

4 分野別のまちづくりの方針 ☆

- 土地利用の方針
- 景観・みどりの方針
- ネットワークの方針
- エリアマネジメントの方針
- 先端技術活用の方針

5 まちづくり方針の実現に向けた取組(第3回で討議予定)

◆背景

- 南大沢駅周辺地区は、ニュータウンとして良好な都市基盤や宅地が整備され、大学、広域商業施設、生活利便施設等の立地が進み、地区内外から多くの人を訪れる拠点が形成されている。
- 一方、高齢化等のニュータウン特有の問題、少子高齢化による学生数減少、近隣の都市や商業施設との競争激化等の要因によりまちの活力低下も懸念されるとともに、道路など交通インフラ整備の動きの加速、働き方改革の進展や技術革新などまちづくりに大きな影響を及ぼす新たな状況への対応も求められている。
- こうした中、東京都や八王子市の上位計画を踏まえ、2025(令和7)年に現在の定期借地契約が終了を迎える地区内の都有地活用を契機として、南大沢駅前周辺地区の更なる発展を誘導していくため、今後のまちづくりの方向性等について検討することとした。

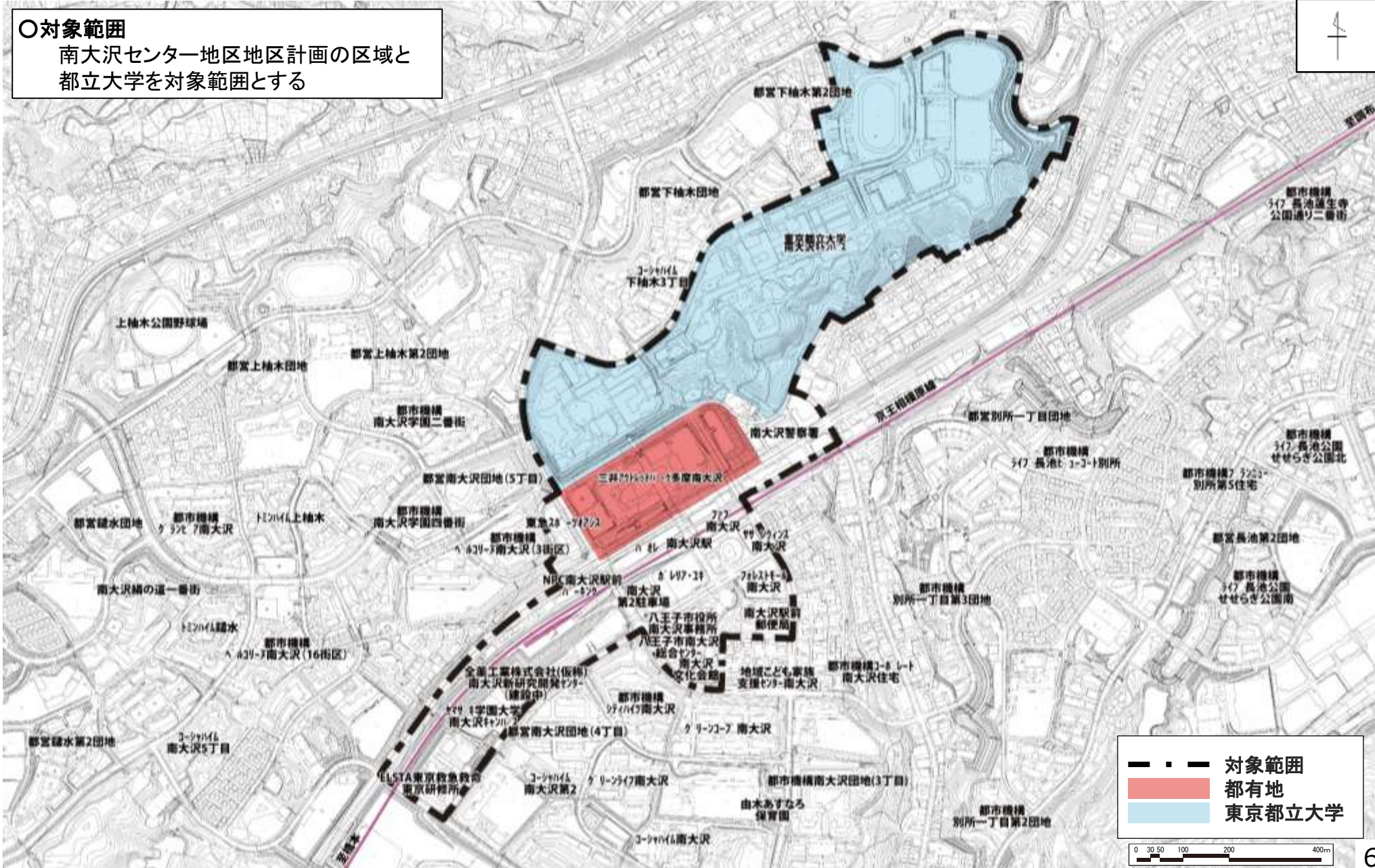
◆目的

本まちづくり方針は、南大沢駅周辺の地域特性や取り巻く現状を踏まえた「まちづくりの方針」や「将来像」を示すことにより、各関係主体の目標の共有と連携、まちづくりに向けた取り組みの促進を図ることを目的とする。

また、対象地区内に位置する都有地及び都立大学については、積極的なまちづくりを展開するため、個別事業の具体化に向けて検討の深度化を図る。

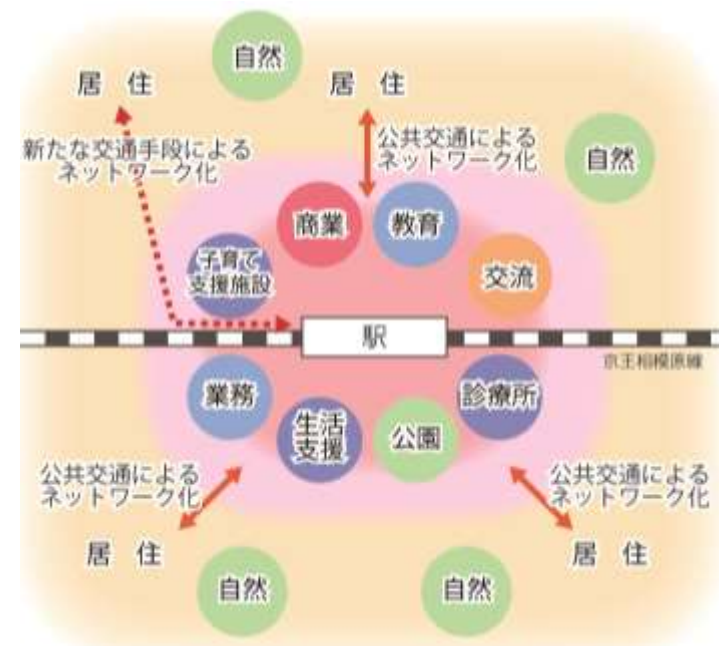
○対象範囲

南大沢センター地区地区計画の区域と
都立大学を対象範囲とする



	対象範囲
	所有地
	東京都立大学

既に備わった優れた地域資源を最大限に活かしつつ、都有地の活用を主軸として、多様なライフスタイルの実現を支える都市機能の集積を一層進め、商業・にぎわい、日常生活の利便性、ビジネス環境、国際性、多様な人々の交流などの一層の充実・向上を図ることで、南大沢駅周辺地区の持続可能な発展を誘導していく。



都市機能配置のイメージ

多様な人々が出会い、新たな技術によってまちと暮らしがアップデートされ、
活力と魅力に満ちたまち

将来像1 ～コンパクトなまち～

多様な機能が駅前に集積し、にぎわいが生まれ、
歩きたくなるまち

将来像2 ～スマートなまち～

先端技術活用や産学公連携により、持続可能な環境が創出
されるまち

将来像3 ～多様性のあるまち～

国内外の多様な人々が集い交流し、安心快適に暮らせるまち

将来像1 ～コンパクトなまち～

多様な機能が駅前に集積し、にぎわいが生まれ、歩きたくなるまち

魅力的な拠点形成のための機能の複合化 (2③)

地区外から多くの人々が訪れる商業施設や大学等の機能を強化しつつ、立地を活かして、より生活を豊かにし、人々が集い活力が生み出されるよう機能の複合化を進める

① 魅力的な商業施設の整備

- まちのにぎわいを一層創出するとともに、その場所で過ごすことに価値を生むような商業環境を整備

<対象エリア>にぎわい

② 落ち着いた街並み景観の形成

- 豊かな自然環境や周辺市街地の良好な景観と一体となり、落ち着きと風格ある景観を形成

<対象エリア>にぎわい・文化・学術連携・研究

誰もが自分らしくポジティブに働ける環境の整備 (6)

時間や場所にとらわれない柔軟な働き方を可能とし、誰もが自分らしくポジティブに働ける環境を整備する

③ 生活と仕事の両立への支援

- 多様な世代が利用できるシェアオフィスや子育て支援施設等の整備により、生活と仕事の両立を支援

<対象エリア>にぎわい

将来像2 ～スマートなまち～

先端技術活用や産学公連携により、持続可能な環境が創出されるまち

先端技術活用や産学公連携の促進 (5)

良好な都市基盤や大学・研究所が集積する立地を生かし、先端技術活用や産学公連携の取組を進めることで、地域の課題を解決するとともに、研究者・学生による起業等を促進していく

① 先端技術を取り入れたまちづくりの推進・大学や研究所の集積を活かした産学公連携の取組の推進

- 都立大学、研究所等と連携し、技術開発やスタートアップ支援等の取組を促進
- 所有地を活用し、先端技術の導入、ビジネスマッチング、起業等ビジネス環境の整備を促進

<対象エリア>にぎわい・文化・学術連携・研究

② 長寿社会を実現する取組の促進

- 高齢化を見据え、ICT技術などを活用したヘルステックなどにより、住み慣れたまちでいつまでも健康に豊かな暮らしを実現できる取組を促進

<対象エリア>にぎわい・文化・学術連携・研究

駅前と住宅地間のアクセス性の強化 (1)

駅前ではより一層の拠点性を高めるために、駅前への円滑なアクセスが確保されるよう、住宅地とのネットワーク化を進め、住み続けられる環境を確保する

③ 誰もが移動しやすいネットワークの形成

- パーソナルモビリティの活用など新たな移動手段の導入を促進
- 住宅地から地区内へのネットワークを強化

<対象エリア>にぎわい・文化・学術連携・研究

将来像3 ～多様性のあるまち～

国内外の多様な人々が集い交流し、安心快適に暮らせるまち

地域コミュニティの活性化と大学等と連携した多文化共生への対応 (4⑦)

エリアマネジメントの主体を育成し、大学等と連携して活発な市民活動やイベントなどを更に発展させていく

外国人等多様な人々が暮らしやすい環境の整備を進めることで、海外の研究者や留学生の増加にも対応し、地元への定着を支援する

① ゆるやかにつながる居場所づくり

- 人との関わりが生まれ、生きがいを感じ、心豊かに暮らせるように、居場所（サードプレイス）空間を創出

<対象エリア>にぎわい・文化

② 多様な人々の交流の促進

- 地域においていきいきと学び、活動・交流できる空間や機会の充実・地域コミュニティの活性化・エリアマネジメント組織と連携した取組により交流を促進

<対象エリア>にぎわい・文化・学術連携

③ 海外の研究者や留学生が暮らしやすい環境の整備

- 海外の研究者や留学生等外国人との相互理解を図り、共に暮らせる地域を実現
- ハード・ソフトの両面で多文化共生の取組を促進

<対象エリア>にぎわい・文化・学術連携・研究

将来像 1 ①魅力的な商業施設の整備

まちのにぎわいを一層創出するとともに、その場所で過ごすことに価値を生むような商業環境を整備

（取組イメージ）

①滞在・交流を創出し付加価値のある商業施設の誘致

②通りと一体となりまちに開かれた商業空間の形成



商業施設の半屋内通路を活用したイベント空間
（富山市まちなか賑わい広場「グランドプラザ」）

事務局撮影



通りと一体となった商業施設内のオープンカフェ
（ららぽーと豊洲）

事務局撮影

（その他）

③日常生活を支える生活利便施設の充実 ④イベントの効果的な情報発信

⑤まちの回遊性を高める一体的な販促・集客イベントの促進

将来像 1 ②落ち着いた街並み景観の形成

豊かな自然環境や周辺市街地の良好な景観と一体となり、落ち着きと風格ある景観を形成

（取組イメージ）

①豊かなみどりや良好な景観の維持保全

②居心地がよく歩きたくなる歩行者空間の整備



ベルコリーヌ南大沢

事務局撮影



道路上部を活用したオープンカテラスと自転車道が分離された歩行者空間（新虎通り）

事務局撮影

（その他）

③街並みの維持・形成に向けた景観ガイドラインの策定

④自然や景観を楽しめるウォーキングルートの設定

将来像 1 ③生活と仕事の両立への支援

多様な世代が利用できるシェアオフィスや子育て支援施設等の整備により、生活と仕事の両立を支援

（取組イメージ）

①多様な世代が利用できるシェアオフィスや
コワーキングスペースの整備



コワーキングスペースのイメージ

出典：フリー素材ぱくたそ

②サテライトオフィスやテレワーク・
モバイルワークプレイスの整備



テレワークのイメージ

出典：TOKYO Date Highway基本戦略

（その他）

③子育て支援施設の整備（アフタースクールの併設）

将来像 2 ①先端技術を取り入れたまちづくりの推進・ 大学や研究所の集積を活かした産学公連携の取組の推進

都立大学、研究所等と連携し、技術開発やスタートアップ支援等の取組を促進
都用地を活用し、先端技術の導入、ビジネスマッチング、起業等ビジネス環境の整備を促進

（取組イメージ）

①5G環境を活用した研究・実証実験の実施



5G環境を活用したスマートシティ・災害対策・高速通信のイメージ

出典：TOKYO Date Highway基本戦略

②先端技術やデジタルコンテンツを活用した施設の誘致やイベントの実施（eスポーツ施設、VR施設等）



VRを活用したイメージ

出典：TOKYO Date Highway基本戦略

(取組イメージ)

③多様な人材が有機的に交流する拠点の整備

3つの機能

- 【交流・啓発機能】** 地域に開かれた異業種交流オープンスクール・セミナー等の開催により、国内外の志士・就業者間の交流・啓発に貢献。
- 【ラボラトリー機能】** 次世代の環境技術・システムの情報収集。モデルオフィスでの業務を通じた効果検証などにより、新たな環境ビジネスの萌芽となる技術・情報・データなどを集積。
- 【ショーケース機能】** 本施設および大丸有地区全体の最先端の取組を可視化・情報発信し、環境都市東京の先進性を世界に向けてアピール。



業種業態の垣根を越えた交流・活動拠点
(大手町ホトリア内にある3×3 Lab Future)



CSVビジネス創発プラットフォーム



サロン



コミュニケーションゾーン

出典: 3×3 Lab FutureHP

(その他)

④起業、ビジネスマッチングの支援

将来像2 ②長寿社会を実現する取組の促進

高齢化を見据え、ICT技術などを活用したヘルステックなどにより、住み慣れたまちでいつまでも健康に豊かな暮らしを実現できる取組を促進

（取組イメージ）

- ①健康・医療・介護分野のデータ活用で、新たなウェルネスソリューションのベストプラクティスを創出する実証実験（認知症対策、デジタルデバイスによる検診、遠隔診療等）



ICT・AI等を活用したイメージ

出典：TOKYO Data Highway基本戦略



5G環境を活用した遠隔診療のイメージ



出典：「未来の東京」戦略ビジョン

（その他）

- ②アニマルセラピーなど、地域の大学と連携した取組の促進

将来像2 ③誰もが移動しやすいネットワークの形成

パーソナルモビリティの活用など新たな移動手段の導入を促進
住宅地から地区内へのネットワークを強化

（取組イメージ）

① 電動車イス（パーソナルモビリティ）、
自動運転バス等の導入



自動運転バスのイメージ

出典：TOKYO Date Highway基本戦略

② 案内サインの統一化やデジタルサイネージ等を
活用した情報発信



多言語に対応した都バス案内用デジタルサイネージ
（新橋駅）

事務局撮影

（その他）

③ 既存公共交通と自動運転バスやシェアサイクルとのネットワーク化 ④ 歩行者階段のスロープ化
⑤ シームレスな駅前空間の形成 ⑥ バリアフリールート複数化や施設内を利用したバリアフリー動線の確保

将来像3 ①ゆるやかにつながる居場所づくり

人との関わりが生まれ、生きがいを感じ、心豊かに暮らせるように、居場所（サードプレイス）空間を創出

（取組イメージ）

①多世代が日常的に集まる交流拠点の整備



寺子屋



子供食堂



趣味サークル



民間の店舗を活用した地域サロン

居場所づくりのイメージ

出典：「未来の東京」戦略ビジョン

②まちに開かれたコミュニティカフェの設置



施設と通りの中間領域を活用したオープンなカフェスペース
（八戸市マチニワ）

事務局撮影

（その他）

③利用しやすく、居心地のよい公園の整備

④南大沢総合センター（フレスコ南大沢）を活用した居場所づくり

将来像3 ②多様な人々の交流の促進

地域においていきいきと学び、活動・交流できる空間や機会の充実・地域コミュニティの活性化・エリアマネジメント組織と連携した取組により交流を促進

（取組イメージ）

①学生等を中心とした地域活動の活性化を担う人材の発掘・育成



学生が企画した地域交流活動を実施している様子

出典：首都大学東京ボランティアセンターHP

②学生がまちなかで活動できるイベントスペースの設置



都立大の学生が三井アウトレットパーク多摩南大沢の広場で行ったイベントの様子

出典：首都大学東京総合HP

（その他）

③TMUプレミアム・カレッジ等大学等と連携したアクティブシニア層の学びの場の充実

④エリアマネジメント組織による活動の実施

⑤既存エリアマネジメント組織に加え、民間事業者や大学も積極的に参画する組織の在り方の検討

将来像3 ③海外の研究者や留学生が暮らしやすい環境の整備

海外の研究者や留学生等外国人との相互理解を図り、共に暮らせる地域を実現する

ハード・ソフトの両面で多文化共生の取組を促進

（取組イメージ）

①海外の研究者や留学生が交流できる場の整備



ボランティアサークルによる交流イベントの様子
（国際交流センター）

出典：首都大学東京総合HP

②海外の研究者や学生向けの住宅の確保



国際学生寮の様子

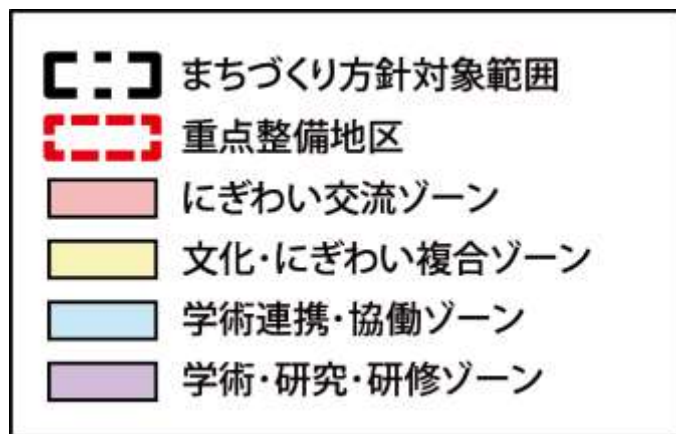
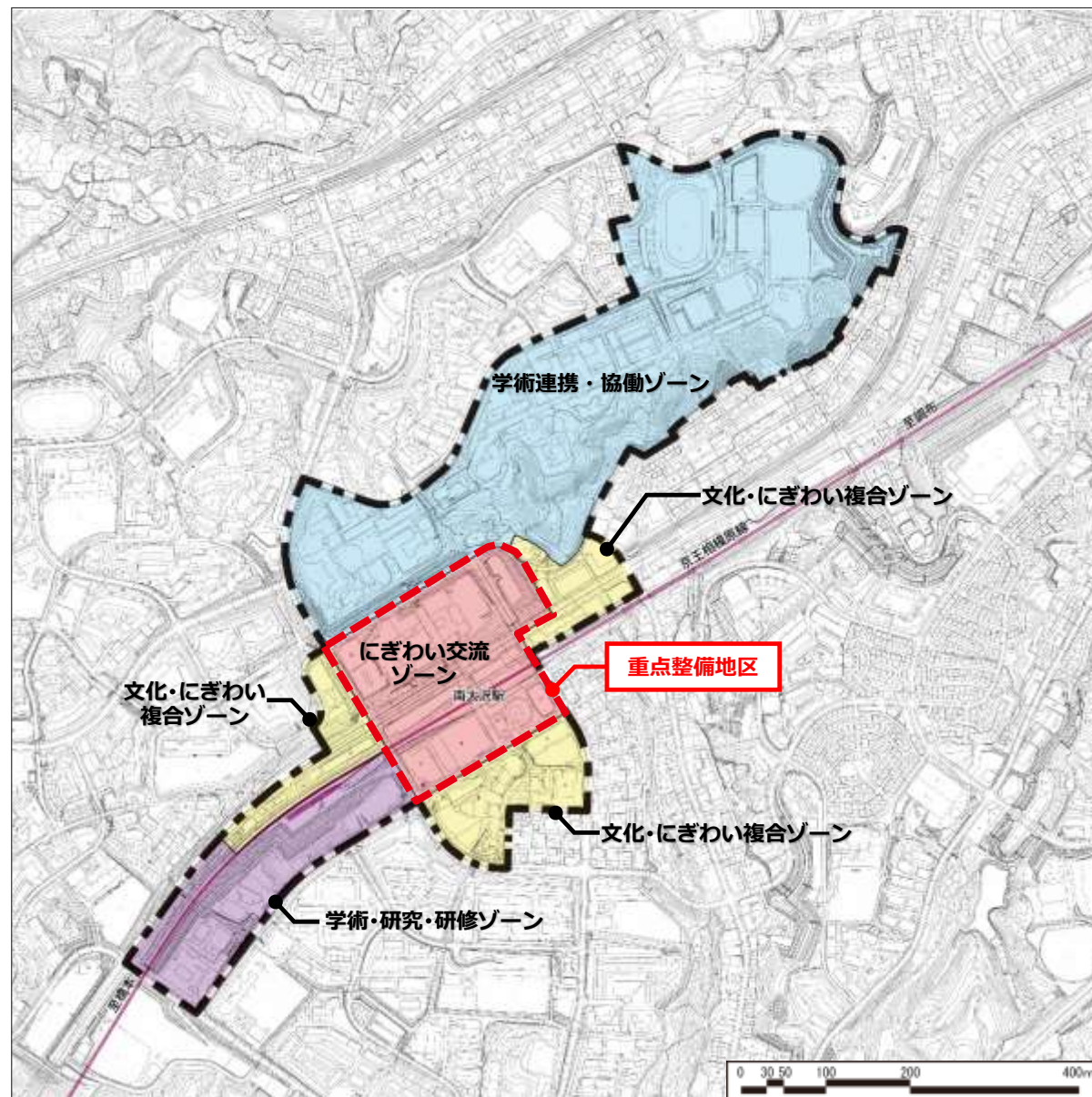
出典：首都大学東京国際センターHP

（その他）

- ③外国人と触れ合い多文化共生を学ぶイベントの開催
- ④医療施設・商業施設等生活利便施設の多言語化の支援
- ⑤多言語に対応したデジタルサイネージの設置
- ⑥外国人向けの生活・就業支援相談窓口の設置
- ⑦日本文化・日本語習得の支援
- ⑧日本への留学を予定している海外の学生向けのプロモーションの展開

まちづくりの将来像を踏まえ、対象範囲内に「にぎわい交流ゾーン」、「文化・にぎわい複合ゾーン」、「学術連携・協働ゾーン」、「学術・研究・研修ゾーン」の4つのゾーンを設定し、立地に応じた土地利用を図る。

また、駅前に隣接する街区については、都有地を有効に活用し、将来、積極的に開発を誘導する「重点整備地区」とし、一層の拠点性を高める。



■ にぎわい交流ゾーン

周辺のゾーンと連携しながら、人々の交流を促すとともに、商業・サテライトオフィス・交流施設等の多様な施設機能の集積を図ることにより、常ににぎわいが溢れる空間の整備を図る。

■ 文化・にぎわい複合ゾーン

にぎわい交流ゾーンを補完するゾーンとして、生活利便施設や文化・娯楽施設の集積を活かしながら、多文化共生に対応したサービスの充実や人々の豊かな暮らしを支える駅前周辺としてふさわしい空間の維持・充実を図る。

■ 学術連携・協働ゾーン

最先端の研究環境を備えた都立大学の特徴を活かし、地域と連携しながら、先端技術活用の促進を図る。

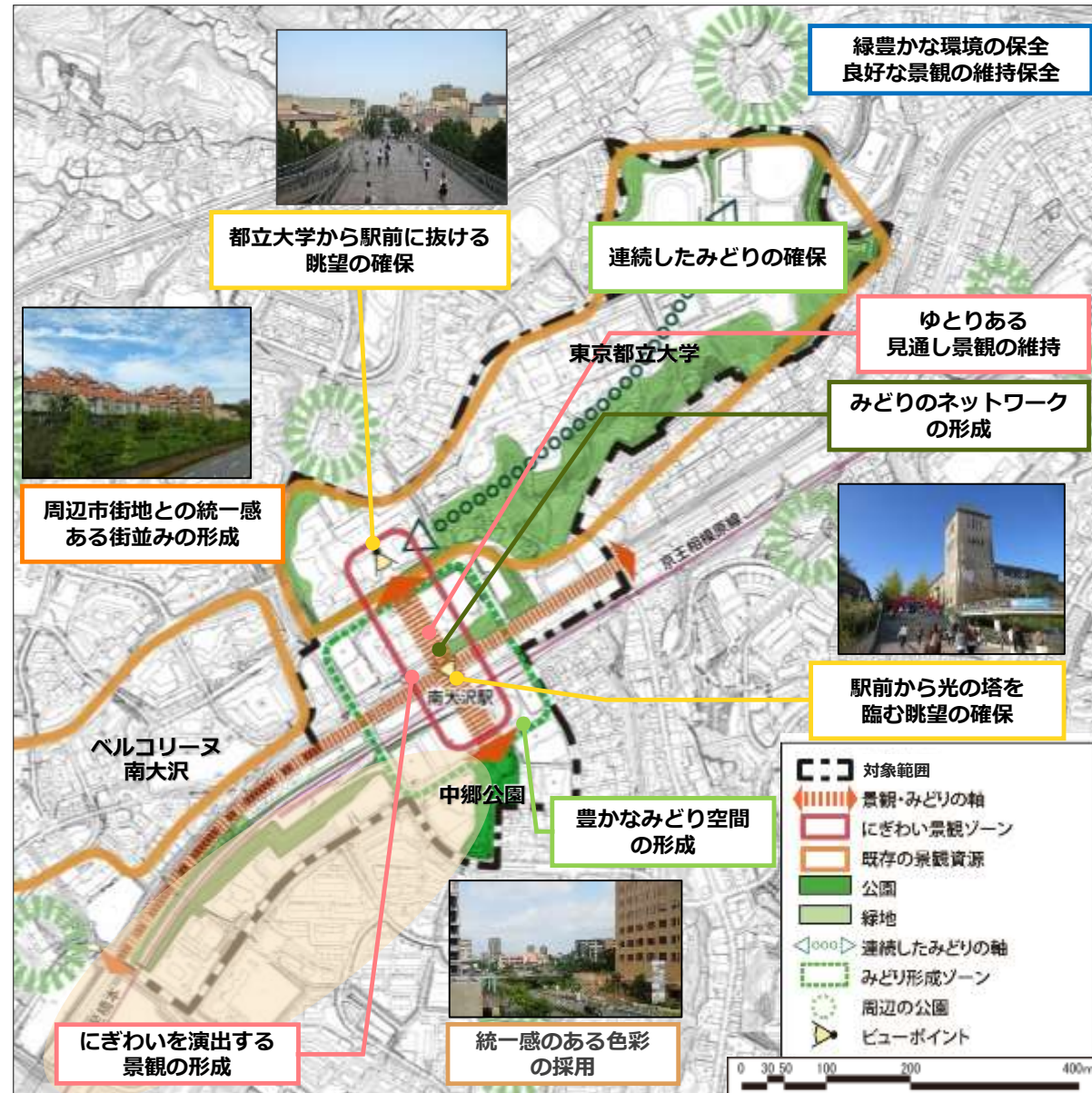
■ 学術・研究・研修ゾーン

教育施設や研究開発施設等の立地を活かし、高度な学術・研究環境の整備を図る。

良好な市街地景観に配慮するとともに、駅前象徴的な見通し景観を維持し国際的にも評価される風格ある景観を形成する。

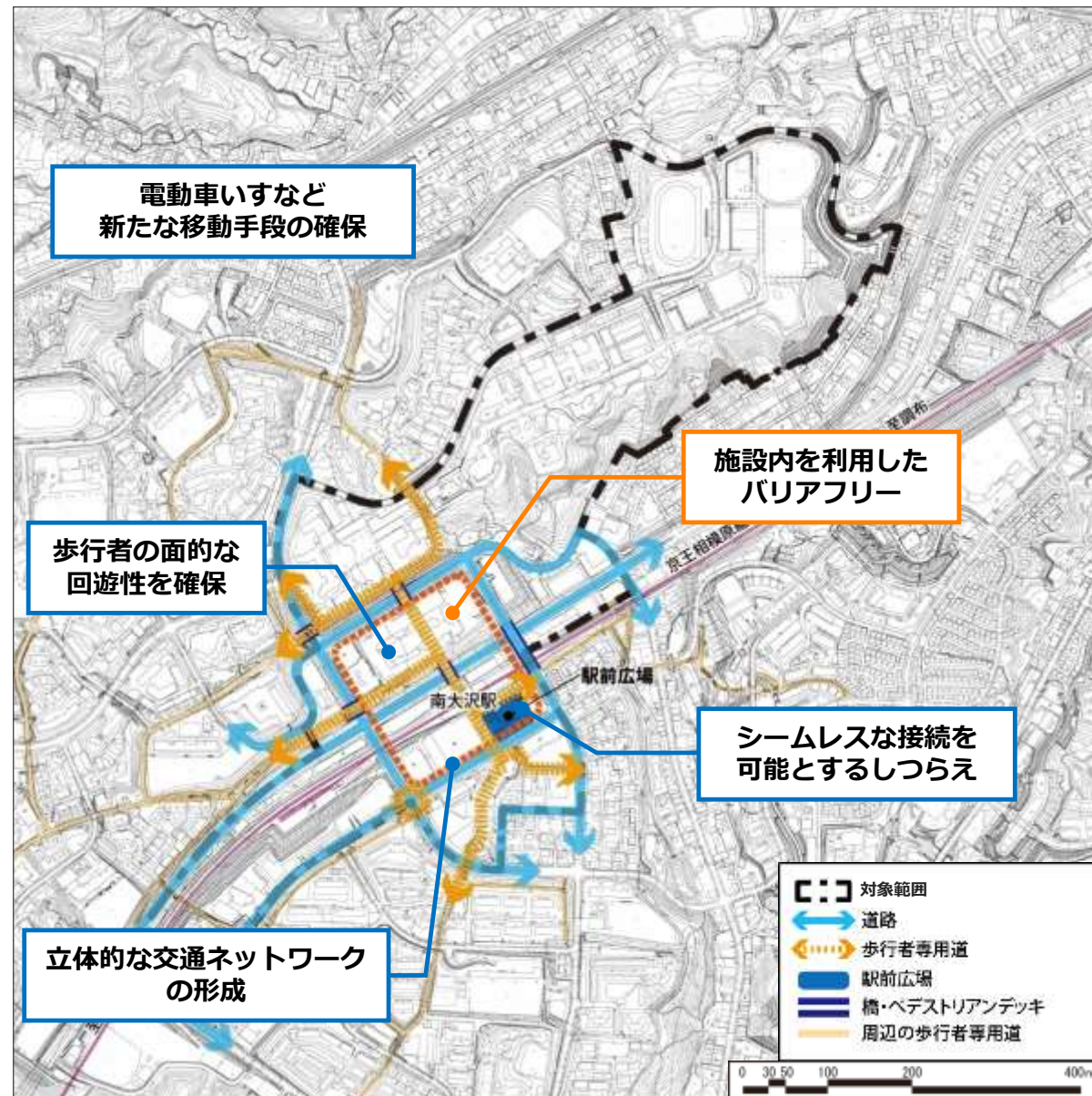
また、周辺の緑豊かな自然環境と調和し、みどりのネットワークを形成するとともに、更なるみどりの充実を図る。

- 多摩NTの計画的な街並みや通り、丘陵地のみどり等、ゆとりと開放感のある良好な景観を維持保全する。
- 都立大学南門から駅前を抜け中郷公園に至る歩行者デッキは、「景観の軸」と位置づけ、ビューポイントからの良好な眺望を確保し、ゆとりある見通し景観を維持する。
- ベルコリーヌ南大沢及び都立大学を中心に形成されてきた良好な景観を継承し、統一感のある街並みを形成する。
- 通りに対してオープンな店のしつらえや、明るくにぎわいを感じられる色彩・意匠を採用し、丘陵地の緑や周辺の街並みとの調和や連続性に配慮する。
- 周辺の豊かな自然や公園・緑地・オープンスペース等の保全・活用を図り、駅前空間とのネットワークを形成する。
- 計画的に整備された道路植栽や広場、公園等は、適切な維持管理を行い、みどり豊かな環境の保全を図る。
- 敷地内の緑化や、可動式植栽などを活用し、駅前周辺にも豊かなみどり空間を形成する。



歩車分離が形成され、自動車と歩行者が共存する既存のネットワークを活かしつつ、バリアフリーに対応した誰もが移動しやすいネットワークを形成する。

- ・ 駅周辺の建物内のエレベーター・エスカレーター等を利用し、立体的な動線も含めて、バリアフリーの動線を確保する。
- ・ 電動車いすなど新たな移動手段の確保により、地形の高低差に対応した移動円滑化を図る。
- ・ 駅前周辺においては、心地よく歩きたくなる空間を整備し、歩行者の面的な回遊性を確保する。
- ・ タクシー・バス乗り場や自転車置き場等へのアクセス動線の確保や案内サインの統一化等により、シームレスな接続を可能とする駅前空間を形成する。



学生等の活力や知恵を活かし、より活発なアクティビティや交流が創出されるよう、民間事業者・大学・市民・行政等各主体が連携し、組織の組成を検討する。

長期的には、既存組織と当組織が連携を図り、将来にわたりまちのにぎわいを維持し、地区内外に対して魅力を発信し続けられるよう、まちの統一感の形成、地区全体で取組むイベントの企画運営、まちの維持管理、周辺市街地の連携に資する活動等エリアマネジメント活動を展開する。

（今後の各者の役割）

- さまざまな主体が参画するだけでなく、既存組織との連携の強化を図る。
- 特に、エリアマネジメントにおいては、都用地活用の民間事業者、都立大学の果たす役割は大きく、両者が中心となって組織の組成・運営を行うことが期待される。

民間事業者 エリアマネジメント組織の組成と企画運営、他主体との協働、場所の提供等

大学 エリアマネジメント組織の組成と企画運営、
専門的な知見・ノウハウの活用、学生の参加・人的支援等

市民 各種活動への参加・協力等

行政 各種事業の支援・助成等

「スマート東京実施戦略（2020（令和2）年2月策定）に記載された事項を中心に取組を進めていく。

スマート東京実施戦略

「『未来の東京』戦略ビジョン」で示した「スマート東京・TOKYO Data Highway戦略」を実現するため、スマート東京の目指す姿をより具体的に明らかにするとともに、2020年度の事業内容等をテーマ別に紹介し、取組を具現化・加速化

2 公共施設や都民サービスのデジタルシフト

「スマート東京」先行実施エリア

- 5つの先行実施エリアで、それぞれの地域特性を活かしたデータ駆動のまちづくりモデルを構築し、順次、都内各地へ取組を拡大
- 5Gをはじめとする高速モバイルネットワークと先端技術を活用した分野横断的なサービスの都市実装を展開

5Gと先端技術を活用した分野横断的なサービスの都市実装



※西新宿、南大沢はTDH重点整備エリア
その他については具体的なエリアやプロジェクトを検討し、順次実施

スマート東京
実施戦略より

2 公共施設や都民サービスのデジタルシフト

スマートシティ

スマート東京先行実施エリアの整備（南大沢地区）

POINT 

特 色：多摩ニュータウン西部の拠点において、学術研究（都立大学）とまちづくりが連携するエリア

目指す姿：最先端の研究とICT活用による住民生活の向上が融合した持続可能なスマートエリア

●5G等を活用した最先端研究や社会実装の展開

- ▶ ローカル5Gなど最先端の研究環境を整備するとともに、5G環境を活用した研究・実証実験等を推進



●先端技術を活用したまちづくりの検討

- ▶ 多摩地域の課題解決や未来のまちづくりのため、産学公連携により5Gなど先端技術を活用した実証実験などを推進
- ▶ 地元市、都立大学、地元企業とともに協議会を設立し、実証実験内容を選定

2 公共施設や都民サービスのデジタルシフト

POINT

 **スマート東京先行実施エリアの整備
（南大沢地区）**

- ・ 東京都立大学でのローカル5G環境の整備と研究等への活用
- ・ 地域の課題解決や未来のまちづくりのためのビッグデータの活用等の実証実験

【ローカル5G環境の整備】

東京都立大学のキャンパス（南大沢、日野）にローカル5G環境の整備（アンテナ設置、基地局整備等）を行うとともに、電波暗室等の研究環境の整備に着手

【5G環境を活用した研究等】

5G環境を活用し、社会実装に資する研究を強力に推進

- 高度通信社会における課題解決型研究や次世代AI・IoT・ロボティクス等の先端分野において社会実装が期待される研究について、選定を行い、研究を開始
（課題解決型研究のイメージ：通信障害、電波障害などを想定）
- 都各局や民間企業との実証実験や共同研究に向けた検討を実施
- 5G環境での実験・研究成果の社会への還元を強化する観点から、研究成果等を活用したスタートアップの促進に向けた検討に着手

【先端技術を活用した実証実験】

未来のまちづくりのために、自律走行可能なモビリティ等による移動円滑化の推進、5G通信技術やビッグデータ（センサーにより収集）の活用等による実証実験を実施